

研究

10月22(金)

NO. 7



研究主任（道徳教育推進教師）

いよいよ日曜日は道徳参観日ですね。子どもたちの学習の様子を地域の方に見ていただき、渡子小が進めている道徳教育を理解していただきたくよい機会です。前回も多くの地域の方や保護者の方が参加してくださった大人対象の道徳の授業もあります。私たちもともに授業を受け、本音で語り合います。

さて、今回も古本指導主事をお迎えし、研究授業を行いました。熱く語られる古本先生に、圧倒されながらもよい刺激とやる気を与えていただきました。

第7回校内研修での学び

【第7回校内研修 2年生 『おばあちゃんのお手玉』

1—(1) 節度ある生活態度 東京書籍】

指導講話：古本 由利 指導主事

地域の人材を生かした道徳の学習の進め方について

項目としては 郷土愛や愛校心等がこれにあたる⇒ふるさと効果が期待できる
ふるさと効果とは→そこで仲間と共に過ごした日々・生活が心に残っているため、
辛い時・苦しい時・挫折した時に立ち直れる起爆剤になる。また、
自己肯定感を持たせられる（人とのつながりや思い出により）。

例；ふるさととは 遠きにありて 思ふもの・・・ 室生 犀星
（離れてみて そのよさを感じるもの）

★連携することの大切さ

職員と地域との連携

事前に打ち合わせをする

○授業のねらいをはっきり伝える。その際に、どのような授業を組み立てたいか授業者が持っておく。

○インタビューの項目を立てゲストティーチャーに渡す（事前に）。

○インタビューへは、複数で行く。

その良さは・・・①聞き漏らしを防ぐ。主観的な受け止めをしなくてすむ。

②役割分担ができる。例えば、一人がインタビューを担当し、もう一人が（本人の了解を得て）ビデオ撮影を行うことができる。

★ゲストティーチャーの扱いで注意すること

来ていただく日に休まれるかもしれないことを想定しておく。そのうえで、
⇒映像に収めておく。

休まれた時使える。また、自作資料も作ることができる。

★**広がり**を持たせること

地域の方に参加していただくことで、学習が総合単元的な扱いになっていく。

⇒学習に広がりを持たせられる。

地域の方も児童に愛着を持ってくださる（身近に感じてくださる）

児童も地域の方に愛着を持つようになる。

⇒地域・児童相互により刺激を与えることができる。

道徳教育の発展へつながる

道徳の時間に行われた地域の方との交流・地域からの学びを家庭にも発信することで家庭も頑張ることができるようになる。

渡子という地域には、地域力がある。家庭の養育能力が不足していたとしてもそれを地域が補ってくれる。だからこそ、地域を巻き込んだ道徳教育を進めよう。

学級の心のコーナーを日々充実させていますか？

児童とともに学習のあしあとを振り返ったり心のコーナーを見返したりすることで、授業での学びを再度確認できますし、日々の児童の生活に生かすこともできます。児童も教師も少しずつ、進歩していきたいものです。お互い、頑張りましょう。

